

小規模河川横断工作物に 設置可能な切欠き魚道



国立研究開発法人 土木研究所
自然共生研究センター

切欠き魚道とは

既存の河川横断工作物に切欠き魚道を設置し、 安価で魚介類の遡上を実現！

- 財政難な自治体などでも、生物多様性の保全に寄与
- 簡易魚道と違い、洪水での魚道流出なし
- 大規模魚道と比べ、大幅なコスト削減を実現
- 土砂がたまりづらく、メンテナンスフリー



施工前（遡上不可）



切欠き魚道 完成後

上流で新しい
魚種の定着を確認

施工にあたっての留意点（現場条件による）

- 【条件】 水面落差 1.5 m 程度までの小型河川横断工作物（床止め、堰など）に設置が可能
- 【検討】 **重要** 工作物を掘削することによる、工作物本体や周辺ブロック護岸の安全性確認が必要
- 【許可】 **重要** 工作物の所有者に許可を得る必要あり、土研の許可は不要
- 【施工】 工作物を所有する行政の施工を想定、もちろん、市民団体やNPOなども設置可能
- 【施工費】 掘削機械を購入（10万円程度）で施工が可能、工事発注でも数十万円程度
(コンクリートハンマーなど)

切欠き魚道の様々な工夫と効果

- 【対象生物】 遊泳魚（ヤマメ、アユなど）、底生魚（ヨシノボリなど）、甲殻類（エビ・カニ）
- 【効果の最大化1】 オーバーハング・粗石・底面の粗削り、曲面仕上げの活用による小型生物への配慮
- 【効果の最大化2】 下流側のふとんかご設置により、更なる水面落差の解消
- 【治水効果】 切欠きにより上流側の河床が下がり、治水安全度の向上を見込める河川あり

